

弁天池

野手を歩く

「野手」姓についての問い合わせがあり、ゆかりの地・野手城跡を訪ねました。城跡周辺は現在、野田地区野手字御城みしろぎにあり、「弁天池」と呼ばれる農村公園になっています。

池のそばに立つ説明板によると、野手城は三つの独立した城郭からなり、館はこの地を治めた野手氏の屋敷、西にあった中堀が堀の内と呼ばれる本丸（御城）、そして前小屋

があったとされています。しかし、現在の景観から城郭と確認できる遺構は少なく、「東門」「大門口」「前小屋」などの地名が手掛かりとなるのみです。

野手姓について『姓氏家系辞典』などでは、ここ野手が発祥の地とされています。中世には、領主が本宅を置いている地名を名乗る習わしがありました。1200年代に千

す。野手・円長寺を菩提寺とした押田氏の中に、天文4年に亡くなった者が埋葬されていることから、この頃野手に進出したのでしょうか。

野手氏はここであっただん消滅したようで、昭和60年に出版された『野栄町史』には、江戸時代になって現在の茨城県に居住したとされる同氏の追跡調査が報告されています。公園内の中の島に「弁財天」と刻まれた石のお宮（石祠）があります。弁財天は水の神としても信仰されるとい

い、沼や池の周辺にまつられます。このお宮は、大正九年旧正月十八日に、西宿里、古町里、宮前里の集落により立てられました。弁天池は、周辺の稲作に水源として欠かせなかったのでしょうか。

池に隣接して古刹・円長寺や六社大神、浅間神社がまつられ、古くから中心地だった雰囲気を感じられます。

筆者が訪れた日は桜が満開で、池で泳ぐ鯉を眺めながら野手氏と野手城に思いを巡らしました。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

閩秘書課広報広聴班

☎73・0080



かつて野手城のあった場所に作られた弁天池。中の島に弁財天がまつられている

葉氏の流れをくむ椎名氏が匠瑳郡南部地域に進出し、野手周辺に居住した一族が野手氏を名乗り、「千葉系図」などにも野手氏の名が見られます。1493（明応2）年には「野手合戦」があり、1535（天文4）年、野手城が八日市場城の押田氏に攻められ落城、野手氏が滅亡したと伝えられています。